



時 栃 報 幼

題字／栃木県知事 福田富一氏

第121号

平成27年6月20日

一般社団法人 栃木県幼稚園連合会

〒320-0033 宇都宮市本町12-11 栃木会館2階

☎028(622)2821 FAX 028(622)2816

●編集人／宇南山 照元 ●発行人／石嶋 勇

■栃幼連ホームページ <http://www.youchien.or.jp>



こどもが
まんなか
PROJECT

平成二十七年度を迎えて



一般社団法人栃木県幼稚園連合会

理事長 石嶋 勇

理事長挨拶

昨年五月十六日の栃幼連定時総会に於いて理事長として二期目のスタートを切らせて頂きました。その間多くの皆様の温かいご指導ご鞭撻を賜っております。衷心より感謝申し上げます。

さて国会では昨年十二月十四日衆議院総選挙が行われ、前回（平成二十四年十二月十六日）に続き自民党が二百九十議席を獲得して大勝しました。よって安倍政権は政権基盤の再構築を果たし、首相自信の経済政策「アベノミクス」

を押し進めることとなりました。よって誰もが実感できる景気回復を期待いたします。

国は税と社会保障の一体改革を進め消費税を八パーセントに引き上げ更には景気の回復をにらみ十％に引き上げようとしている。これは社会保障の財源確保を目指すものであります。その財源から子ども・子育て支援新制度へその一部を充てるとしています。また幼児教育無償化に向けては、段階的に実施し幼稚園就園奨励費補助

の拡大を目指した結果、保護者負担軽減を図っています。また質の高い幼児教育を担保するためにも幼児教育無償化は必ず実現しなければなりません。栃幼連は、全日私幼連と連携協力して積極的に振興活動してまいります。今後の子育て支援政策を注視してまいります。

いよいよ本年四月一日から「子ども・子育て支援新制度」がスタートしました。

新制度に移行した園にとっては先の見えない不安なスタートであります。見えてこない公定価格・市町によって異なる利用者負担額（保育料）・階層区分ごとに異なる保育料（応能負担）・認定申請や保護者の同意書など事務的な負担は各園とも重くのしかかっています。事務関係の簡素化は急務であり県市町へ事務的負担軽減を図って頂くよう要望してまいります。

一方、私学助成を受ける幼稚園の運営費県単補助の増額・退職金財団への補助率のアップを強く要望し、栃木県幼稚園連合会・栃木県私立幼稚園振興連盟・退職金振興財団のすべての加盟園が一致団結して目的達成のため運動しなければなりません。

超少子化による園児減少に歯止

めがかからない現況の中で、経営基盤の安定と幼児教育の更なる向上を目指して努力を続ける事が大事であります。今後も、その努力が報われますように、大きな変革期の様々な諸課題解決に向けて国・県に要望してまいります。

結びに、会員の皆様の温かい支援ご協力を重ねてお願い申し上げます。

平成二十七年度を迎えて



こども政策課長 小竹 欣男

新年度となり早二カ月。木々や田んぼの緑も日々深くなってきました。子どもたちもきつと、園内の新たな生活に慣れてきたころではないでしょうか。

一般社団法人栃木県幼稚園連合会及び会員の皆様には、本県の幼児教育の振興や充実のため、格別の御尽力と御協力をいただき、厚く御礼を申し上げます。

さて、近年の子どもたちを取り巻く環境は、急速に進む少子高齢



化や核家族化、人口減少の本格化など、大きな転換期にあります。こうした社会の大きな変化に対応し、一人ひとりが豊かさを実感できる社会の実現を図っていくためには、未来を担う子どもたちを社会全体で守り、育てていくことが極めて重要だと考えております。特に幼児期は、生涯にわたる人格形成の基礎を築く時期であり、幼稚園・認定こども園の果たす役割は大きなものがございます。

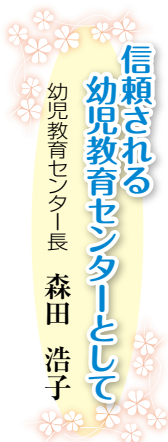
こうした中、本年四月「子ども・子育て支援新制度」が本格スタートいたしました。国は、内閣府に「子ども・子育て本部」を設置し、子ども・子育て支援のための基本的な政策や少子化の進展への対処に係る企画立案・総合調整を行うとともに、幼稚園、保育所、認定こども園、小規模保育等に対する財政支援の一元的な実施、認定こども園制度の運用などを担っていくことにしたところです。

本県におきましても、新たに「とちぎ子ども・子育て支援プラン」を策定し、保護者のニーズに対応した教育・保育を提供するため、計画的な量の拡充と質の向上を目指すとともに、昨年度まで文書学事課で所管していた幼稚園の業務をこども政策課に移管し、幼稚園、

保育所、認定こども園の業務をこども政策課に一元化し、幼児期の学校教育・保育、地域の子育て支援を一体的に推進していくことといたしました。

県といたしましては、今後とも市町等と連携の上、必要な情報を適時適切に提供するなど、新制度が円滑に運用されるよう、的確に対応して参ります。

子どもたちがすくすくと育つことは、保護者の方々をはじめ、子ども・子育てに携わる全ての人々の共通の願いです。次世代を担う子どもたちが園内に元気な声を響かせ、心豊かに成長できるように、幼児教育や子育て支援の充実にも引き続き取り組んで参りますので、栃木県幼稚園連合会や幼稚園・認定こども園の皆様の更なる御理解と御協力をお願いいたします。



皆様、こんにちは。私は四月より幼児教育センター長として着任いたしました森田浩子と申し

ます。幼児教育センターの勤務は初めてとなりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

栃木県幼稚園連合会の皆様方には、幼児教育センターの各種事業につきまして御理解・御協力をいただき、ありがとうございます。栗田 英子専門員には豊富な経験からの確かな御講話やアドバイスをいただいております。また、幼稚園連合会との連携においても御尽力いただき、センター運営に寄与してくださることに感謝申し上げます。

私は昨年度まで宇都宮市内の小学校に勤務しておりました。小学校の教員が幼稚園・保育所での教育や保育を体験する機会は少ないのですが、勤務校の教諭が幼・保・小相互職場体験研修に参加し、幼稚園での保育を参観・体験した時のことです。研修から戻った教諭は、幼稚園の環境構成のすばらしさや個に応じた日案と日々の記録・省察の蓄積が大変勉強になったと報告をし、その後校内研修において環境と援助を小学校教育へつないでいく大切さについて発表しました。現在、小学校では小一プロブレム等様々な問題を抱えておりますが、私もこれらを解消す

るための方法として幼・保・小の連携を深め、幼児期と児童期が交流活動や教育課程でつながることがとても重要であると考えております。

さて、十年ほど前に私が県教委の学校教育課で幼児教育を担当した時に、認定こども園の創設について関係各課と連携を図りながら共通理解を図っていたことが印象に残っています。この十年間に幼児教育を巡る状況も変化し、現在県内に認定こども園は五十六か所創立されました。しかし様々な状況の変化の中にあっても、幼児教育が生涯にわたる人格形成の基礎を培うもの、義務教育とその後の教育の基礎を培うものとして重視されていることに変わりはありません。幼児教育センターは平成十四年度に創立以来、研修、幼・保・小の連携、情報の提供、調査研究を四つの柱として幼稚園・保育所・小学校の教員を対象に事業を展開してまいりましたが、信頼されるセンターとして、保育・教育の質の向上と子どもの発達段階を踏まえ健全で調和のとれた成長のために努力してまいりたいと思います。今後とも御支援・御協力をいただきますよう、よろしくお願いたします。

平成
26
年度

臨時総会



去る三月二十五日（水）午後三時半より二荒山会館鶴の間にて、平成二十六年臨時総会が開催された。

本総会は、平成二十七年より施行される「子ども・子育て支援新制度」の実施に伴い、枋幼連の定款変更が必要となったための開催である。司会は吉水義浩氏が務めた。定刻に中川祐慈副理事長による開会の言葉が始まり、石嶋勇理事長からは、今回の臨時総会の主旨についての説明と、枋幼連所属の全園がより「大同団結」して新年度に臨むべく、議案の慎重審議を願う挨拶があった。

【議長選出】

新田 文英氏（足利いずみ幼稚園）

【資格審査】

（一九一園中）出席園 六八園
委任状出席園 一一六園

【議事録署名人】

富川 将氏（間々田幼稚園）

武田 純子氏（きぬ川幼稚園）

【記録人選出】

事務局 河合智美氏

以上の手続きを経て議事の審議に入った。

【報告事項】平成二十七年事業計画並びに収支予算の報告について

まず、この臨時総会に先立って

開催された理事会にて承認可決された、平成二十七年事業計画並びに収支予算について、各委員長から報告された。

【第一号議案 定款等の変更について】

続いて今回の臨時総会の本題である「定款等の変更」について、平野総務委員長から、臨時総会資料をもとに説明があり、質疑となった。



すでに各園に何度か素案が提示されていたという経緯もあり、すぐに承認作業に入り、満場一致で原案通り承認可決された。

【その他の議案】

特にその他の議案動議もないという事で、議事は終了となり、石川均副理事長の閉会の言葉をもちて閉会となった。

平成27年度
五月定時総会

五月十五日（金）午後三時より
御来賓に

枋木県保健福祉部こども政策課

課長 小竹 欣男様

枋木県幼児教育センター

センター長 森田 浩子様

枋木県保健福祉部こども政策課

子ども・子育て支援班長

横田 公宏様

枋木県保健福祉部こども政策課

主事 根本 裕子様

（一社）枋木県幼稚園連合会顧問

栗原 信明先生

の御臨席を賜り、宇都宮市のコンセーレにおいて五月定時総会が開催された。



船田副理事長の開会のことばの後、石嶋理事長あいさつ、そして御来賓よりの祝辞を賜った。

続いての議案では、議長に犬伏幼稚園 理事長 安藤 儀一先生を選出して、報告事項として平成二十六年年度の事業報告が石嶋理事長、各委員会委員長より行われた。審議事項では、第一号議案として平成二十六年年度収支決算書類及び付属明細書の承認についてが、総務委員長より上程され、監査報告の後決議において満場一致にて可決承認された。すべての議事を滞りなく終了し中川副理事長の閉会のことばで五月定時総会を閉会した。

【議長】

犬伏幼稚園

理事長 安藤 儀一先生

【資格審査】

（一八七園中）出席園 九六園
委任状出席園 八六園

【議事録署名人】

平川幼稚園 関口 修司先生

いずみ幼稚園 佐藤 峻介先生

【記録】

事務局

【報告事項】

平成二十六年事業報告

（審議事項）

第一号議案 平成二十六年年度収支決算書類及び付属明細書の承認について

枋木県私立幼稚園振興連盟
平成二十七年総会

平成二十七年年度枋幼連定時総会終了後、枋木県私立幼稚園振興連盟の総会がコンセーレにて開催された。

石川均振興連盟会長の挨拶の後、議長に安藤儀一氏（犬伏幼稚園）を選出し、「資格審査」会員数

百七十四名中、出席八十三名、委任状出席八十名、「議事録署名人」

関口修司氏（平川幼稚園）佐藤峻介氏（いずみ幼稚園）、「記録人選出」河合智美氏（事務局）の手続

を経て議事に入った。①平成二十六年事業報告並びに収支決算の承認について②平成二十七年事業計画（案）並びに収支予算

（案）の承認について③自由民主党枋木県私立幼稚園支部平成二十六年年度収支決算並びに平成二十七年

年度収支予算（案）の承認について

の三議案は、すべて原案通り可決承認された。最後に阿部博美氏（今市中央幼稚園）より、県議会選の

御礼の挨拶があった。

終了後開催された幼稚園教育振興懇談会は、二十二

名の県会議員の先生方にご出席いただき、有意義な懇

談となった。





新制度施行後の 現状と課題

宇都宮地区
岩本学園認定みどり子ども園

理事長園長 岩本眞砂枝

幼保連携型

利用定員 一七五名



一九五三年の創立以来六十三年の時を刻んできたが、宇都宮市の平成通り拡張のため新しい地に移転、新園舎を新築する形で、平成二十七年四月認定みどりこども園を開園した。東に田川とコスモスロード、南にJR日光線、西は宇都宮グランドホテルに隣接と特徴のある環境である。

シンボルツリーのある駐車場から大谷石の大きなゲートを括ると、園庭を囲んで、右手に地域子育て支援室、左手に〇歳から五歳までの九つの保育室が並びという景観だ。



白い塔がアクセントになった明るい黄色の園舎は、園のマークに因んで白つめ草の前に芭を持たせ、ところどころにアイアンの彫刻や益子の陶砂利を配すことで、創立者の心を継承し、バランスのとれた創造性豊かな教育環境をテーマにしている。

利用定員一七五名、九クラスは決して大きな規模ではないが、三十名のスタッフは、新しい認定こども園の保育の実践に園長とともに汗を流しているところである。

まだまだ試行錯誤が始まったばかりだが、家庭訪問の際などに保護者から「子どもが給食がおいしかった、と言ってます」等の声も頂き、『始めて良かった』と嬉しくなる。これからの研鑽を重ねて社会のニーズに応えられるよう努力していきたい。

夏に向けて園児たちが蒔いたヒマワリが咲く日が楽しみである。



芳賀地区
認定こども園茂木愛泉幼稚園

副園長 篠原真木子

幼保連携型

利用定員 九三名

四月から幼保連携型の認定こども園としてスタートして一ヶ月。

現状・職員、保護者が一ヶ月経つて、ようやく新制度を理解。

・乳幼児からの入園希望や乳幼児の育児相談が増加。

・町の他保育所入所のあいまいだった部分が制度化され、統一。

苦勞・保護者説明会、職員説明会を数回実施。

・昨年度中と知らせていた町からの認定、保育料額決定が四月半ばになり、保護者から多くの質問あり。四月分は現金で集金。

・認定によって同じクラス在籍の幼児でも保育日数が異なるため、長期休業中の欠席や、



預かり保育の人数把握など、幼児の記録の取り方が複雑。

・幼稚園部、保育園部の教員ができるだけ平等に園務を分担できるようシフトを作成。一ヶ月で動きやすいよう変更あり。

課題

・年度途中入園や、認定切り替えにスムーズな対応ができるよう、教材の準備や「年間保育日数」の個人計算。

・事務の保育料集金手続きが複雑になり、

事務が慣れる必要あり。

結論・乳幼児保育や、勤務状況により異なる保育料・保育時間の設定など、より子育て支援のしやすい「認定こども園」は、自園の地域性にあっており、保護者・職員とも納得してすすんでいる。





佐野地区
洗心幼稚園 認定こども園

園長 佐野 延洋

幼保連携型

利用定員 一八五名



当園は、今年度より、給食施設等を整備し幼保連携型認定こども園となったが、手続の煩雑さや制度の理解不足から、できることとなら二十七年度は見送って二十八年度からできれば良かったと思う。小規模保育＋幼稚園での幼保連携も、設備投資や将来的な見通しを考えると、現実的な選択肢であったと思う。

園側から見た場合、手続や書類の煩雑さ、加算分の後日払い対応など、事務方の作業は予想通り大変だったが、大凡どこの地域でも

同程度の混乱はあったのではと想像する。

一方、保護者側からの視点では、同施設で同年齢の子が同じ教育を受けるのに、認定によって保育料や給食費、園を利用できる時間が違う点に戸惑いや疑問があり、年度当初は、認定や保育料に関する質問が多数あった。また、一号↓二号への認定変更の要望もあった。

一般的な利用者の感覚としては、同じ施設を長時間使う人ほど保育料も高くなると思うし、同内容の給食を食べていれば同じ料金となると思うが、実際はそうではない。この辺りが一号認定と二号認定での不公平感となっている。特に幼稚園から幼保連携型になったところでは課題になっていると思うし、不公平感の解消が今後の課題となると思う。



那須地区
認定あけぼのこども園

園長 齋藤 達成

幼保連携型

利用定員 一九九名



那須塩原市では新制度を推進し、施設や備品も補助をして頂いた。最近では二号及び三号認定の時間管理システムも同様である。

四月からあけぼの幼稚園から幼保連携型のこども園「認定あけぼのこども園」となり「まなぶ！あそぶ！がんばる！」をかかげ、サッカーのフルコートが入る園庭で薄着、裸足で運動遊びやボール遊び、サッカー、保育室では、絵本を通しての文字遊びや数遊びを日々おこなっている。

我が園で認定こども園となり、一番大きく変わったのは保育時間と職員である。保育時間の延長によりシフトを考え、職員を倍に増やした。なぜか職員が増えたのに余裕がないように感じられる。保育園とは違い、登園、降園方法も

違い戸惑いがある。

一年間を通していけば流れがわかり、職員も動きやすくなるだろう。

我が園の事だけでは無いが、なぜ通常保育と短時間保育では単価がちがうのか。時間が長かろうが短かろうが職員は保育をしなくてはならない。どんな時間でも同じ補助金を出すようにしてもらいたい。

休日保育は各園で休日保育をしている園に依頼しないといけない現状である。できれば市でまとめて依頼して頂きたい。

新制度はこれからさらに各園で工夫と努力が必要とされるであろう。全ての園が頑張っしてほしいと思う。





幼稚園問題研究会

期日 平成二十七年三月五日
会場 二荒山会館

出席者 県文書学事課

副主幹 古林 正氏

主幹 野口 善幸氏

副主幹 稲見 啓氏

栃幼連

正副理事長・常任理事・地区理事



平野総務委員長
総合司会のもと、自己紹介から始まり、和やかな雰囲気の中で開かれ、新制度に伴い、平成二十七年度の幼稚園問題研究会の趣旨等が述べられ、以下協議事項について活発に意見交換された。

① 平成二十七年新制度の概要等について、園関係者から、林氏より説明された。運営費補助金は従来通り私立幼稚園の幼稚園、施設型・認定こども園の幼稚園については新制度で算入され、地域子育て推進事業については、ラ・ンド事業は地域に必要であると再確認された。県の財政難の中、数字的に減らさず、幼児教育の重要性を減らさず、子育て支援新制度について、子ども・子育て支援新制度について、子ども政策課野口氏より説明を

② 子ども・子育て支援新制度について、子ども政策課野口氏より説明を

を受けた。公立・私立幼稚園、認定こども園等、より良い教育を展開するに当たり、文書学事課と事前準備段階から話し合いを進めてきた。認定こども園相談窓口で対応できるように、更に力を入れている旨説明された。

③ その他各委員会からの質疑事項があった。

【振興委員会】

・特別支援教育補助金

・耐震補強に対する補助金

・保育行政・私学行政が有効なる融合を望む

・学校基本調査の方法

【教育研究委員会】

・〇二歳児を担当する保育教諭の研修について、幼稚園と保育園で共有できる研修をめぐす等情報提供を望む

【認定こども園委員会】

・教育・保育要領についての研修会

・退職金問題（保育所部分・小規模保育・その他、同一法人で行うところの職員について）

・保育者確保を含め地方創世、子ども子育て、人口減少について



以上、様々な意見が出され、活発な意見交換がなされた。我々幼稚園等だけでなく、今後行政として、子どもたちの未来をどう支えるのか、より質の高い教育と諸問題を解決する体制づくりに取り組み前向きな考えを共有できた。

教員養成機関・栃幼連懇談会

期日 平成二十七年六月三日（水）

午前十時三十分～

会場 ホテルニューイタヤ

出席者した養成機関（順不同）

宇都宮ビジネス電子専門学校二名、国際介護福祉専門学校二名、宇都宮共和大学二名、佐野短期大学一名、足利短期大学二名、國學院大学栃木短期大学二名、白鷗大学二名、作新学院大学女子短期大学部二名

主な懇談内容



県内の教員養成機関八校と栃幼連正副理事長・常任理事との恒例の懇談会が開催され、平野総務委員長の進行のもと情報交換が行われた。

自己紹介の後、参考として平成二十七年新制度新規採用者数二百四十六名（内五月まで退職者二名）、二十六年中退職者数二百九十三名（二年未満六十二名）あり、増加傾向なので今後検討していくと報告された。

就職説明会について、二十六年参加園が増加した。参加学生も二十五年度対比九十六名増加し五百三名だったが、今年度新制度移行により参加園の増加も予想され、県内の複数の幼稚園・認定こども園等を知る絶好の機会でもあるので学生に参加を促してほしい。今年度から「連合会加盟園に就職を希望する」説明会とチラシの表示も変更になる。

また、加盟園類型も複雑化しているので勤務体制等、わかりやすいように明示してもらいたい旨話があった。

教育実習の協議では、地区園長会からの意見として実習前の指導（オリエンテーション）についてあり、養成機関としては事前事後指導・授業等で勉強した上で挑ませていると説明があった。

求人について、就職先希望状況は、幼稚園・認定こども園を足すと保育所（園）と半々だが、やや保育所希望が多いようである。そのような背景で、実習期間中や就職説明会での早い時期での内定の声掛け等があり、学生が自由に園を選び、園を見学したり、自主実習に挑んだり気軽に就活ができない状況があり問題である。

その結果、退職率増や早期退職にもつながっているのではないかと意見があった。今後の課題として、柔軟な就職活動や育児休業等働きやすく長く勤められる環境を整備することが必要である。今後養成機関と連携して問題解決に取り組むことで懇談会を終了した。



幼児教育センターだより



幼児教育センターでは、子ども・子育て支援新制度の実施に伴い、「幼児期の学校教育」としての幼児教育の質の向上を図るため、様々な研修を企画しています。

これから九月にかけての研修を御紹介します。

合同研修（幼・保・小）

「特別な支援を要する幼児・児童への対応」をテーマに、幼稚園や保育所での対応、就学を境にした時期の有効な引継ぎ等について、小学校の先生方と協議します。

トップセミナー

新制度実施に伴う経営等に生かせるよう、「東京デイズ・リーゾートサービスの経営理念と組織づくり」と題し、株式会社オリエンタルランドの松本浩一氏から講話をいただきます。

特別支援教育研修

自園での実践も含めた二日間の研修です。第一日には、宇都宮大学の司城紀代美氏から「特別な支援が必要な幼児と他児との関わり合い」の講話をいただきます。また、発達障害のある息子さんをもつ保護者から体験談があります。

教育課程研究集会（幼児教育）

当研修につきまして、予備調査と本調査への御協力ありがとうございました。お陰様で、平成二十七年・二十八年度の受講園数の把握をすることができました。

子ども・子育て支援新制度が本格的にスタートし、ますます幼児教育の質の維持・向上が求められています。今年度は、「カリキュラム・マネジメント」「特別支援教育の園内体制づくり」が文部科学省から協議主題として示されました。ぜひ、これを機会に、国からの最新の情報を取り入れ、教育課程を見直し、さらに園の教育力をアップさせてください。

研修参加申込みはこちらから

研修の申込みは、こちらの研修案内を御活用ください。



職員室に
下げてね

研修内容とFAX申込書が一体となって、そのまま送信できるようにしております。

今年度も、**お手元においていただけるように赤いひもをつけました。**

一年間、保存して、活用してください。

研修に参加する際には、必ず「幼稚園教育要領解説（平成二十年十月）」を持参してください。

たくさんの方の参加をお待ちしております。

新規採用幼稚園教諭研修

四月三日、新規採用幼稚園教諭研修第一日を、総合教育センターで実施しました。期待と意欲に満ちあふれた新規採用教諭二四六名とともに、幼児教育センター事業もさわやかなスタートを切りました。



開講式では、小竹欣男こども政策課長、石嶋勇柝幼稚園理事長、森田浩子幼児教育センター長から挨拶があり、先生の仲間入りをした新採者に歓迎の温かいエールが送られました。

「幼稚園教諭として」「幼児期の健康管理と安全管理」「環境を通じた教育」「保育の実践と省察」の講話があり、受講者からは「担任をするにあたって責任をもって子ども達に接していきたいと思いました」「ねらいに合わせて、環境を工夫したいです」「記録・省察を繰り返して、子ども一人一人を深く理解していきたいです」などの感想が多く寄せられました。

受講者の先生方が、保育を楽しみながら、子どもとのかかわりを深められるよう、職員一同応援させていただきます。



リーフレット御活用ください！

今年度、幼児教育センターでは、「幼児期から大切にしたい学びに向かう集団づくり」のリーフレットを作成しました。幼児期から児童期にかけて「学びに向かう集団」となるために各々の時期に大切にしたい子どもの姿、それを支え、引き出す教師の関わりをまとめました。ぜひ、園内研修や保護者会等で御活用ください。



センター職員紹介

今年度は、二名が新メンバーとなり、八名の職員でスタートしました。

●センター長 森田 浩子

宇都宮市市立富士見小学校より

●副主幹 堀江 賢

県教育委員会学校教育課より

よろしくお願いします



センターマスコット
ぴよちゃん

これまで同様、御理解と御支援をよろしくお願いいたします。



こども政策課だより

平成二十七年から幼稚園、保育所、認定こども園の担当課をこども政策課に一元化し、「子ども・子育て支援班」を新設いたしました。引き続き幼児教育や子育て支援の充実に努めて参りますので、本年度もよろしくお願いいたします。



- 根本主事
- 高橋主事
- 斉藤主査
- 野中係長
- 野口課長補佐
- 横田 主査
- 小竹課長
- 佐瀬課長補佐
- 阿部主査
- 稲見主査
- 尾崎主査
- 大根田副主幹
- 尾崎主査

学校基礎調査（教職員確認等）のヒアリング実施について

学校基礎調査（教職員確認等）のヒアリングを次の日程で実施します。本年度から私学助成を選択する幼稚園のみが対象となります。御多忙のところ誠に恐縮ですが、担当者の出席について、御協力をお願いします。

- 日程
- 七月一日（水）、八日（水）、九日（木）
- 場所
- 栃木県庁本館六階大会議室

その他詳細については、別途送付する通知文を参照してください。

各種届出書類について

園則や園地・園舎、理事・監事等の変更を行った場合は、速やかに各届出を提出願います。

学校法人の平成二十六年度決算書及期限は、六月三十日です。

平成二十六年度決算に伴う資産総額の変更登記は、五月三十一日までに行い、登記済届を六月三十日までに御提出ください。

平成二十七年七月～九月までの事業予定

7月3日	※特別支援教育研修
7月8日	栃幼PTA総会
7月8日	0・1・2歳児研修
7月10日	保育セオリ講義
7月11日	資質向上選抜養成講座Ⅹ
7月12日	就職説明会
7月22日	※10年経験者研修
7月30・31日	第62回県教研大会
7月30・31日	バス安全運転講習会
7月30・31日	※10年経験者研修
7月31日	新採研（集合研修）
8月4・5日	免許状更新講習
8月17・19日	全日私幼関東地区教研大会（茨城）
8月18・19日	新採研（宿泊研修）
8月25日	（公財）幼児教育実践学会 福島
8月28日	※10年経験者研修
9月3日	※教育課程研究会（幼児教育）
9月9日	保育テクニカル講座
9月9日	資質向上選抜養成講座Ⅹ
9月15日	設置者・園長研修会
	※は幼児教育センター事業

慶事

- 平成二十七年 県各種功労者表彰（県知事表彰）
- きぬ川幼稚園 園長 純子 先生
- 作新学院幼稚園 副園長 山荷フサ子 先生
- すきのこ三島幼稚園 園長 戸田直樹 先生
- 認定こども園黒羽幼稚園 新園舎 竣工式
- 平成二十七年五月二十二日
- みふみ認定こども園 新園舎 竣工式
- 平成二十七年六月六日

訃報

- 高根沢町 親和幼稚園 理事長 手塚 博司 先生
- 平成二十七年四月二十五日 逝去
- 下野市 認定こども園むつみ愛泉こども園 理事長・園長 小倉 睦美 先生
- 平成二十七年六月五日 逝去
- 謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

編集後記

昨年、慌ただしく決断をしいられた新制度がいよいよスタートしました。

我が園には、時折様々な客が訪れます。最近よく来るのは、キジの親子。「ケンケン」と鳴き声があまりに近いので、園庭を見ると数羽のキジが芝の間の虫を見つけているのか、のんびりと地を突いています。子どもたちも慣れた風景に「また来てるよ」「キジが鳴いた」と楽しんでるようです。しかし、子どもたちにとって怖い客も来ます。猿にシカ、季節によってはクマや猪の出没に悩まされます。他にもタヌキやもぐら、空を見れば群れでどんびが旋回していることも。我が園は、「子ども園になる前にどつぶつ園だね」と笑ってしまいます。

こんなのかな地域では考えられないような報道を耳にします。子どもたちの声が騒音とみなされ、様々な波紋をよんでいることに心が痛みます。

今、子どもたちを取り巻く環境が時代と共に変化していく中、すべての子どもたちの為の新制度が、今後どのように結果を出していくのか、そしてそれに関わっていく私たちのに課せられる責任を、改めて感じているところです。（松島 則子）